

<ポイント版> ぎふ経済レポート（平成 28 年 1 月分）

【景況感】

景気は緩やかに回復しつつあるものの、一部に弱さが見られる。

【製造業】生産、売上は輸送用機械関連を中心に順調に推移

○製造業全体では輸入原料の高騰によるコスト高が続いている。中国経済の影響も見られるものの、輸送用機械関連を中心に受注や生産は順調に推移している。

【地場産業】依然として厳しい状況が続いている

○依然として消費意欲の減退や海外製品との競合、原材料費の値上がりなどにより厳しい状況が続いているものの、生産に落ち着きを見せ始めた企業も一部でみられる。

【個人消費】消費増税に伴う駆け込み需要の反動減は和らいでいる

○雇用環境の改善による賃金上昇を背景に、消費の裾野は徐々に広がりつつある。売上が前年同月比を上回るまでに回復している小売店も見受けられ、駆け込み消費の反動減は和らいでいる。

【観光】インバウンドは好調を維持

○観光では、宿泊施設、観光入込客ともに、暖冬の影響により観光客の旅行意欲が衰えず、また降雪が少なく道路状況が良かったことが幸いし、前年比で好調を維持している。

【雇用】一部の業界において人手不足が発生している

○雇用面では、大学・短大・高校卒業者の就職内定率が最近 7 年間で最も高い水準となっていることから、総じて県内の雇用情勢は回復基調にあるものの、製造業の一部や建設業、非製造業では、人手不足に陥っている企業が見受けられる。

【設備投資】投資実績は増加傾向も、投資意欲には一服感が見られる

○設備投資の目的のうち、今まで据え置かれていた工場・機械等の「補修・更新」が減少し、「生産能力拡大・売上増」、「合理化・省力化」といった前向きな設備投資が増加。しかしながら、足元で工作機械受注が減少しており今後の影響が懸念される。

【資金繰り】資金繰りは改善傾向

○企業の資金繰りは、改善傾向にある。新規融資実績は、横ばいの状況が続いているが、業況の悪化している業種に属する中小企業者を支援するための措置である「セーフティネット保証 5 号」の承諾実績が、増加に転じつつある。